

# 仙台市震災復興メモリアル事業 における拠点の位置付け

令和元(2019)年9月1日

# これまでの経過

平成23(2011)年3月11日

**東日本大震災発生**

平成26(2014)年12月

**仙台市震災復興メモリアル等検討委員会が仙台市に提言**

平成27(2015)年12月

**地下鉄荒井駅舎内に「せんだい3.11メモリアル交流館」が開館**

(地下鉄東西線開業の12月6日に一部先行開館、翌年2月13日に全館開館)

平成29(2017)年4月

**「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」が開館**

平成31(2019)年1月

**中心部震災メモリアル拠点検討委員会が発足**

令和元(2019)年8月

**震災遺構 仙台市荒浜地区住宅基礎を公開**

# 仙台市震災復興メモリアル等検討委員会の提言と取組状況 (1/4)

## 1 震災復興メモリアルに込める願い

時を経て 世代が替わっても 災害から命を守るために  
 仙台市民一人ひとりが 東日本大震災の記憶と経験を  
 未来へ 世界へ つなぐ

【震災復興メモリアルに込める願い】  
 東日本大震災の記憶と経験を 未来へ 世界へ つなぐ



## 2 6つの取り組みの方向性

### ① 地域資源を引き継ぐ

※ 各団体が取り組むメモリアル関連事業の一部を抜粋し、掲載しています

| 取り組み               | 取り組みの方向性          |
|--------------------|-------------------|
| 東部地域における<br>みどりの再生 | 市民の手で植え育てる仕組みづくり  |
|                    | みどりへの多様な関わり方の創出   |
| 貞山運河の再生と利活用        | 歴史や文化、豊かな自然環境を伝える |
|                    | 多様な参加の仕組みづくり      |

| 主な関連事業 ※  |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>ふるさとの杜再生プロジェクト：仙台ふるさとの杜再生プロジェクト連絡会議</li> </ul>                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>居久根の保全・再生：市民、民間団体、仙台市</li> <li>農業園芸センターの再整備：仙台市、民間事業者</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>貞山運河に関する情報発信等：貞山運河研究所</li> <li>荒浜灯籠流し：同実行委員会</li> </ul>          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>海岸公園再整備：仙台市</li> <li>みんなの橋（仙台インプログレス）：せんだいメディアテーク</li> </ul>     |

【上記の他、「地域資源を引き継ぐ」事業】

- ・ふかぬまビーチフェスタ：仙台市
- ・RE:プロジェクト：仙台市
- ・3.11オモイデツアー：3.11オモイデアーカイブ

# 仙台市震災復興メモリアル等検討委員会の提言と取組状況 (2/4)

## ②記憶と経験を形にする

※ 各団体が取り組むメモリアル関連事業の一部を抜粋し、掲載しています

| 取り組み               | 取り組みの方向性                | 主な関連事業 ※   |
|--------------------|-------------------------|--|
| モノUMENTと遺構による記憶の継承 | 犠牲者や被災地域を悼む場やモノUMENTの整備 | ・地域モノUMENT整備：仙台市   |
|                    | 津波の脅威を実感できる遺構の保存        | ・震災遺構整備：仙台市  |
| 市民力によるアーカイブの整備と利活用 | 市民一人ひとりの想いを含めたアーカイブの整備  | ・震災復興記録誌の編さん：仙台市<br>・3がつ11にちをわすれないためにセンター：仙台市、せんだいメディアテーク<br>・みちのく震録伝：東北大学 |
|                    | 震災の経験を伝え続けるための拠点整備      | ・仙台市のアーカイブ拠点（検討中）：仙台市<br>・NHK仙台放送局メディアステーション：NHK                           |
|                    | さまざまな手法での伝え方            | ・市民センターや文化センターにおける朗読やミュージカルによる伝承活動：仙台市<br>・書籍「震災学」の発行：東北学院大学               |

【上記の他、「記憶と経験を形にする」事業】

- ・プラネタリウム特別番組「星空とともに」：仙台市天文台
- ・海岸公園冒険広場における発信：仙台市、冒険あそび場－せんだい・みやぎネットワーク

## ③明日へ向かう力を育てる

| 取り組み                 | 取り組みの方向性                    | 主な関連事業 ※  |
|----------------------|-----------------------------|---|
| 文化・芸術の力を復興と記憶の継承に生かす | 文化・芸術による取り組みの推進             | ・復興コンサート：仙台市、音楽の力による復興センター・東北<br>・仙台市文化プログラム：仙台市、仙台市市民文化事業団<br>・3.11文学館からのメッセージ：仙台文学館など全国の文学館 |
|                      | 文化・芸術による取り組みを将来につなげるための拠点整備 | ・音楽ホール（検討中）：仙台市   |
| 知り学ぶ機会をつくる           | 自然現象や災害を知り学べる環境の整備          | ・せんだい3.11メモリアル交流館企画展（フィールドワーク）：仙台市  |
|                      | 人材の育成                       | ・311『伝える／備える』次世代塾：報道機関、大学、企業、仙台市<br>・復興大学復興人材育成教育：学都仙台コンソーシアム                                 |
|                      | 3月11日の過ごし方                  | ・仙台市追悼式典：仙台市<br>・キャンドルナイト：3.11キャンドルナイト実行委員会<br>・HOPE FOR project：同実行委員会                       |

【上記の他、「明日へ向かう力を育てる」事業】

- ・七夕の折り鶴（故郷復興プロジェクト）：仙台市教育委員会
- ・仙台版防災教育：仙台市教育委員会
- ・今できることプロジェクト：河北新報社

# 仙台市震災復興メモリアル等検討委員会の提言と取組状況 (3/4)

## 3 組織設置と協働による事業推進

※ 各団体が取り組むメモリアル関連事業の一部を抜粋し、掲載しています

| 項目            | 取組み           | 主な関連事業 ※  |
|---------------|---------------|---|
| 事業推進に必要とされること | 組織の設置         | (今後の課題)   |
|               | 多様な主体との協働     | ・ せんだい3.11メモリアル交流館における協力事業<br>・ 前記事業（一部掲載）の他、様々な事業を多様な主体との協働により展開 |
| 事業推進における留意点   | 多様性と変化への対応    | (今後の課題)   |
|               | 経験をつなぐ手法を生み出す | (今後の課題)   |

## 4 拠点整備による事業展開

- ◎ 各取組みを有機的に結び、震災の記憶と経験を、未来や世界へつないでいくためには、継承のための拠点が必要。
- ◎ 仙台市では、中心部と沿岸部でそれぞれの場所の特性を生かしながら事業を展開することが有効。

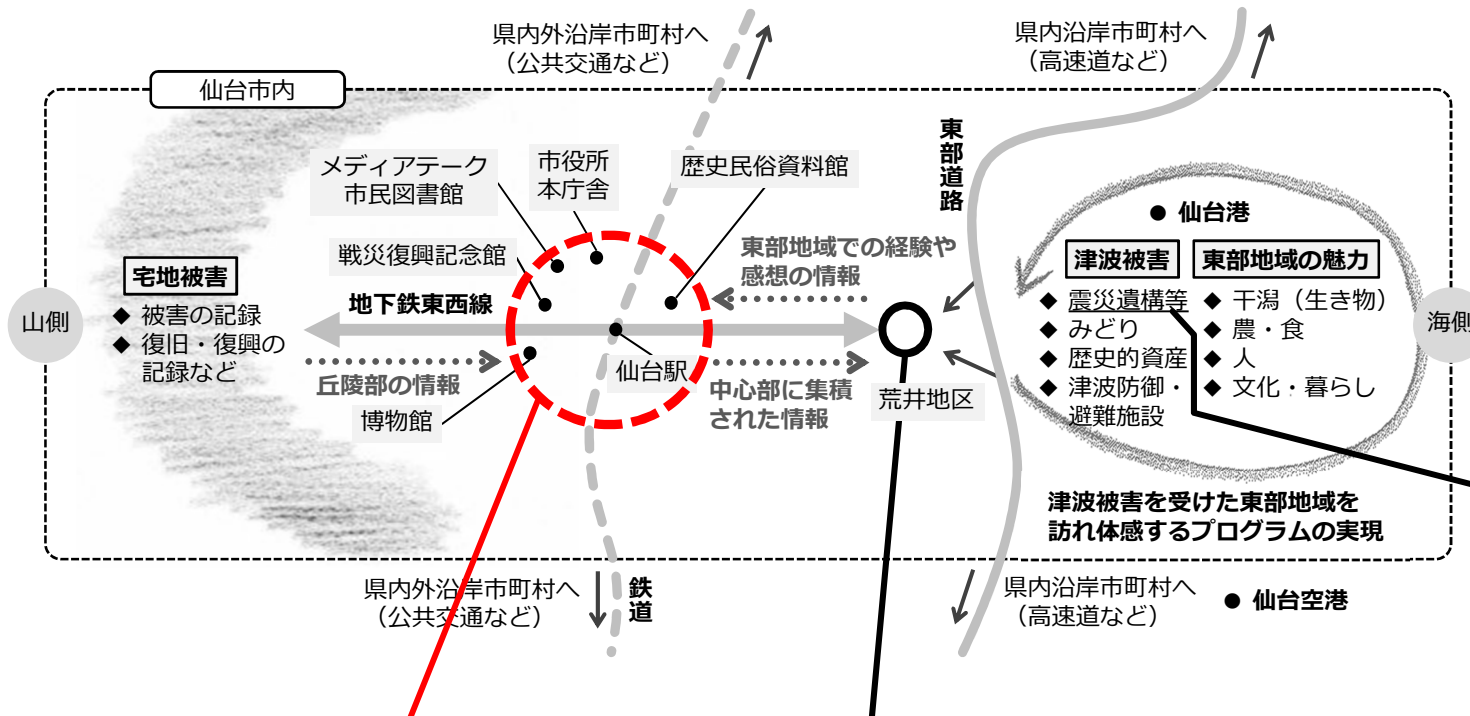
### (1) 継承のための拠点

- ・ 被災の跡が見えなくなった中心市街地と、津波による震災の跡が残る東部地域。近いながらも被災状況に違いのある二つの地域をつなぎながら、震災の記憶と経験を伝えることが大切
- ・ 東北の中心都市として、東北各地、宮城県沿岸部への訪問につなげる玄関口の役割を果たすことも求められる

### (2) 中心部と沿岸部拠点の役割分担

- ・ 中心部の拠点は、市民一人ひとりの震災体験、津波被災・宅地被災の状況、長期化した不自由な生活の様子など、そこに込められた想いも含め収集・編集し、発信する役割を担う
- ・ 沿岸部の拠点は、津波被害を受けた現地を訪れ、震災の記憶と経験を知り学ぶ沿岸部回遊の出発点の役割を担う

# 仙台市震災復興メモリアル等検討委員会の提言と取組状況 (4/4)



中心部の拠点 (丘陵部の情報含む)

位置付け：①東北、宮城の玄関口  
②3.11を収集・編集・発信する拠点

役割：市民一人ひとりの震災体験、津波被災・宅地被災の状況、長期化した不自由な生活の様子など、そこに込められた想いも含め収集・編集し、発信する拠点

機能：①震災の記憶と経験の収集・編集の継続  
②市民が震災を語る場  
③東日本大震災の全体像がわかる展示

沿岸部の拠点：せんだい3.11メモリアル交流館

位置付け：①宮城、仙台東部地域への玄関口  
②3.11を知り学ぶ拠点

役割：津波被害を受けた現地を訪れ、震災の記憶と経験を知り学ぶ沿岸部回遊の出発点

機能：①東部地域の回遊に必要な情報の展示  
②フィールドワーク活動のプログラムづくり  
③人の想いも含めた伝え方につながる活用